愛和外語学院　第１回　公開ラボ

初級授業デザインの真髄にふれよう

～『できる日本語』を素材にした対話～

発題者　深江　妹川

対話者　嶋田　和子氏
参加されたみなさま

第１回　公開ラボの概要

話題提供１

カリキュラムを変えることと学校を創ること

話題提供２

パターンプラクティスのパターンを創ること

公開ラボ開催の背景

日本語教育は日本語教師は

社会の開かれた場所にいますか？

社会から必要とされていますか？

社会に必要性を伝えていますか？

という問いかけ

公開ラボ開催の目的

所属機関という「枠を壊し」

私たちに『何ができる』かを共有し

授業を創る　学校を創る

ひとつの契機としたい

⇒　日本語教育を創ること

第1回公開ラボの問題関心

- 学校運営における創造性とは何だろうか？
- 初級授業における創造性とは何だろうか？

公開ラボの方法

Ⅰ　みなさんが自己紹介

Ⅱ　発題者による話題提供

Ⅲ　みなさんと対話

発題①

カリキュラムを変えることと学校を創ること

深江　新太郎
妹川　幸代

問題意識

日本語学校には【だれから】

何がもとめられているのか？

問題意識

日本語学校には【だれから】

《何が》もとめられているのか？

【だれから】　　《何が》

経営陣

学生

地域社会

大学

問題意識

地域社会と日本語学校

日本語学校が地域社会で何ができるか

地域社会に存在する日本語学校

日本語教育の実践を

地域社会とのつながりから考える

本校の取り組み

①進学コースの教育カリキュラムの改正

②地域の外国人を対象とした日本語教育事業

③地域の日本人を招いた国際交流事業

地域の外国人を対象とした日本語教育事業

平成２３年度文化庁委託事業

「生活者としての」外国人のための日本語教育事業

・ムスリムのためのサバイバル日本語講座

・図書館で“遊び”を創る　ことばの広場

ムスリムのためのサバイバル日本語

概要

期間：2011年9月26日～12月16日

時間数：68時間

受講者数：18名

国籍：インドネシア，マレーシア，
バングラディシュ，エジプト
シリア，モロッコ，アメリカ

クラス：男性クラス，女性クラス

ムスリムのためのサバイバル日本語

講座風景 1

ムスリムのためのサバイバル日本語

講座風景２

図書館で“遊び”を創ることばの広場

概要

期間：2011年6月25日～2012年3月17日

時間数：30時間

受講者数：8名

国籍：中国，韓国，フィリピン，
ネパール，アメリカ

対象：福岡市内の小学校に通う外国人児童

図書館で“遊び”を創ることばの広場

講座風景１

図書館で“遊び”を創ることばの広場

講座風景２

地域の日本人を招いた国際交流事業

概要

ワールドフレンドシップ

様々な国の食をテーマに食文化交流を行う

（中国，韓国，インドネシア，ベトナム）

これまで10回行う

地域の日本人を招いた国際交流事業

ワールドフレンドシップ（7月7日納涼会）

地域の日本人を招いた国際交流事業

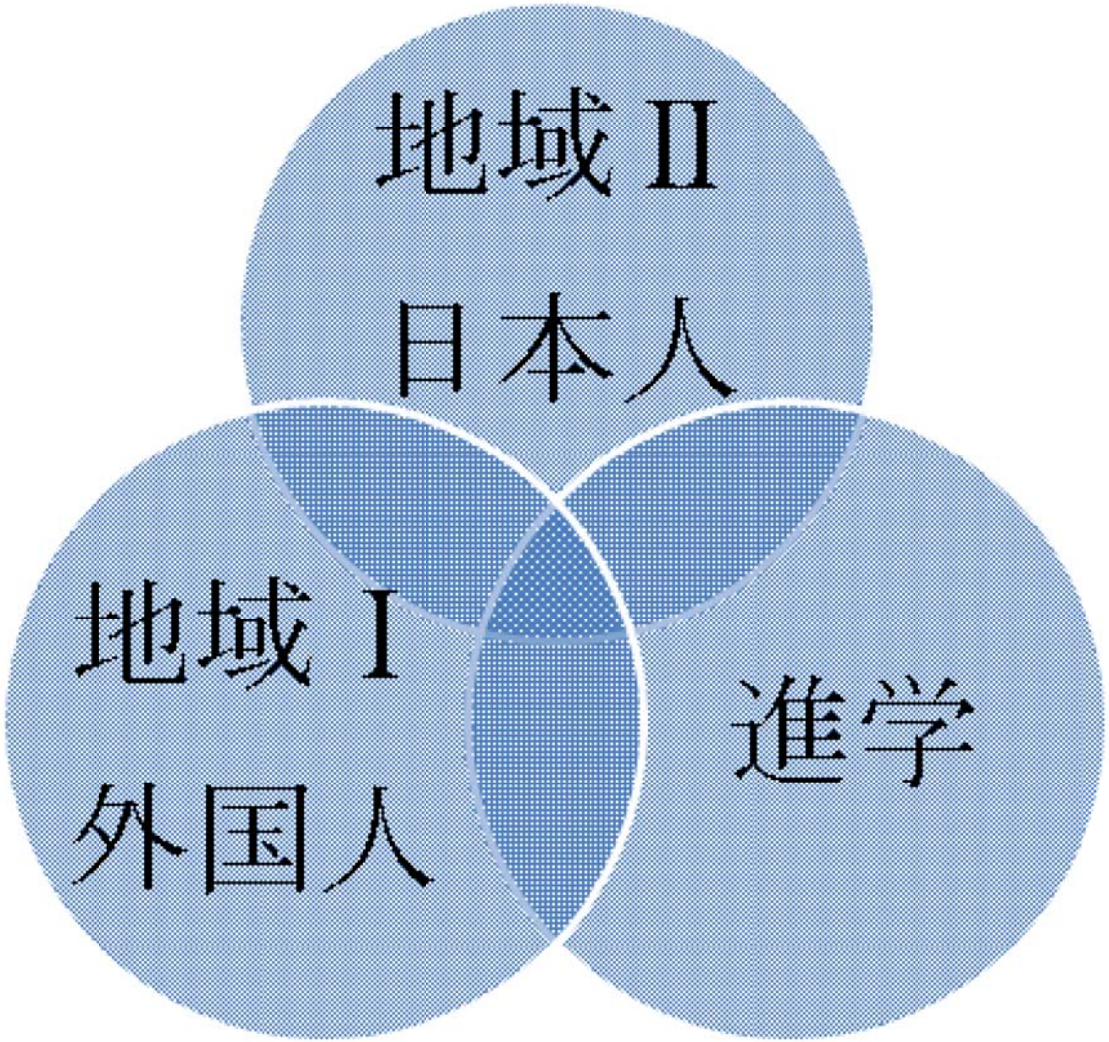
第11回　ワールドフレンドシップ

2012年9月22日（土）11時～13時

マレーシア

学校を創る，ときの一つの仮説

相乗効果



進学コースの教育カリキュラム改正

2012年4月より

初級の教科書として

嶋田和子監修　アルク・凡人社共同開発

『できる日本語』

採用

なぜ『できる日本語』か？

教科書のない状態で授業を考える

↓

その授業と『できる日本語』が合ったから

なぜ『できる日本語』か？

授業構成のマクロな視点

人は言語行動を通して社会で必要とされる課題を達成する

⇒　地域社会へ入っていく授業

なぜ『できる日本語』か？

授業構成のミクロな視点

① トピックへの導入

② 場面提示

③ 文型・会話例の創作

④ パターンプラクティス

⑤ 展開練習

『できる日本語』を用いた実践例

授業構成のマクロな視点

地域社会へ入っていく授業展開の例

『できる日本語』の実践例①

第２課　買い物・食事

スモールトピック３「レストラン」

行動目標

レストランで注文することができる

『できる日本語』第２課　買い物・食事

スモールトピック３「レストランで注文する」

隣の焼き鳥屋に焼き鳥を買いに行く(12.5.15)

本学院のスピーチ大会（12.8.28）

焼き鳥屋のおじちゃんが
スピーチ大会の審査員として参加

『できる日本語』の実践例②

第１３課　私のおすすめ

スモールトピック３「教えてください」

行動目標

自分が知りたい情報をえるために

質問することができる

『できる日本語』第13課　私のおすすめ

スモールとピック3「教えてください」

九州大学の図書館で大学生に聞く（12. 8. 21）

まとめ

カリキュラムを変えることと学校を創ること

|

それぞれの〈地域社会〉という柱を加える

|

オリジナリティのある学校が創られる

今後の展開―本学院の取り組み

平成24年度文化庁委託事業「生活者としての」外国人のための日本語教育事業

・日本語教室の開講
　“ムスリムのための”サバイバル日本語講座

・ボランティア実践研修
　生活場面から始まる楽しい授業を創る

・外国人児童を対象とした授業創作
　小学校行事を題材とした授業を創る